沼の平の Patterned Grounds

若生達夫・菅野国雄・越田捷子・中島 逞・
細川幸也・三浦 修

磐梯山 (1,819m)・赤埴山 (1,427m) の間に位置する沼の平 (1,380m) は、湿地 (夏季) と緩傾斜地 (湿地の東および南に分布し、角礫層よりなる) とに分けられる。

若生は、1962年、この地で規則性ある地形をみだし、更に、これは構造土類似の地形ではあるが、その典型的断面を示さない可能性のあることに気がついた。筆者らは、1963 年 7 月、現地調査を行ない、次のような結果を得た。

緩傾斜地は、最大 4° の勾配をもち、ここでは、stone stripes 様の地形がみられる。すなわち、幅 50cm 前後の高まりと、幅 2~3m の低まりとが、傾斜方向に、規則的に並んでおり、斜面下部では、高まりの部分が合一したり、turf-banked benches の形態をとる。高まりは、草および小さな木で一様に覆われている。これら凹凸地形の横断方向での地下の状態は、図にみられるように、stone stripes の特徴を示さない。低まりの部分での角礫の配置は、polygons の特徴を示す (写真)。

湿地には、草およびわづかの低木で覆われた earth hummock 様の高まり (径 50cm 内外、周囲より 10cm くらい高い) が点在する。高まりの地下構造は、周囲の低い所と、肉眼的には、何ら変わらないことが知られた。

沼の平の形成時期は、明らかにされてはいない。従って、今のところこれら構造土類似の地形の生成期について議論はしない。ただ、当地のこの地形のすべてが従来いわれている典型的な構造土でないことが注目され、また、これに

重なった形で構造土が発達していることに興味をもたれる。この点、形成期の問題が残されているが、T.N. Caine (1963) の報告した例に、一部似ているといえる。

構造土現象は第四紀の気候変化と関係するだけでなく、時期をぬいて考えても、その発達位置が問題であり、C. Troll (1948) が強調するように、その発達は、風との関係も大きい。気候景観の1つとして興味ある事実とみなし、ここに報告する次第である。

Caine, T.N. (1963) : The origin of sorted stripes in the Lake District, Northern England Geogr. Annaler **45** 172~179

Troll, C. (1948) : Der subnivale oder periglaziale Zyklus der Denudation Erdkunde **2** 1~21

Patterned Grounds of Numano-taira, Mt. Bantai

Tatsuo WAKO, Kunio KANNO, Shoko KOSHIDA, Tei NAKAJIMA,
Koya HOSOKAWA, and Osamu MIURA

In a depression named Numano-taira, 1,380m above the sea-level, situated in Mt. Bantai, one can see earth hummocks in its floor, stone-stripe-like linear banks and turf-banked benches on the side slope, 4° in maximum angle, surrounding its floor.

The structure of linear bank (Fig.) does not show the properties of true stone stripe; the distribution of breccia at the intermediate part between such linear banks (Photo.) exhibits the characteristics of typical polygon.